

『念ずれば花ひらく』

期末試験が終わると、毎朝7時半過ぎからピロティで野球の応援練習が続けられました。吹奏楽部・ダンス同好会・生徒会・野球部が合同で生み出すその元気の良い応援を聞きながら、私自身何か勇気づけられつつ、やるときにはやる出雲高校生の集中力を感じて頼もしくも感じていました。

日々応援練習の様子を見ながら、脳裡にある言葉が浮かんできました。「念ずれば花ひらく」。「念ず」というのは、「常に心に思う。心に祈る」という意味ですね。教科書にも載ったりしたので、知っている人も多いと思います。この言葉が浮かんだのは、本校野球部保護者会作成の応援団扇に、この「念ずれば花ひらく」が書かれている影響かもしれませんが、野球部に頑張っていて欲しくてひたすら応援する姿に、まさに「念ずる」姿を感じたからだと思います。

いい言葉だなと以前から思っていますが、この言葉の出典を知っていますか。これは、**坂村真民**という詩人の詩の一つで、真民の代名詞とも言える言葉でもあります。

「念ずれば花ひらく」

念ずれば花ひらく 苦しいとき 母がいつも口にしていた このことばを
わたしもいつのころからか となえるようになった そうしてそのたび
わたしの花がふしぎと ひとつひとつ ひらいていった

真民46歳の時、片方の目が見えなくなり絶望の底にあった時に生まれた詩で、「念ずれば花ひらく」という言葉は、真民が小さいとき夫に先立たれた母親が苦しい生活の中で自分を励ますために、念仏のようにいつも言っていた言葉だそうです。

ただ、「念ずる」というのは単に心に祈るだけではないですね。『詩集 念ずれば花ひらく』のあとがきで真民は、「**念ずるとするのは、前向きに生きようとする**ことであって、**希望なのである。どん底に落ちても、念じながら這い上がってくる不屈の魂である。**」と書いています。この詩は、**前向きに生きるための「願いの詩」**なのです。(坂村真民記念館)公式ガイドブック参照)

心に強く念ずることが、前向きに進もうとする希望につながっていく。そしてそれはどん底から這い上がってくる行動を伴う不屈の魂でもある。この事はとても大事な生きる指標であると思います。保護者会の応援団扇に、「念ずれば花ひらく」に続いて「**不撓不屈**」と書かれ、それが「**燃やせ！久徴魂**」と表現されていることに、今更ながらこの応援団扇を作られた皆さんの思いに敬意を覚えます。

皆さんが、**何か心から念ずる対象を持ち、それに向かって前向きに、不撓不屈で進んでいく。いつか花開くと信じて進んでいく。**とても大事なことだと思います。

野球部保護者会が長い間念じ続けて来た思いが、去年は甲子園出場に結びつきました。今年は、甲子園はならなかったけれど、本当に粘り強い、出雲高校らしさが随所に出た、見るものに感動を与える熱戦をやりきったという点で、これも一つの「花ひらく」形であったと私は嬉しく思っています。

真民は高校の国語教師で、人生の後半は**愛媛県松山市南方の砥部町**に住み97歳で亡くなります。没後の平成24年3月11日、砥部町に「**坂村真民記念館**」がオープンしました。実は私は、本校の試合前に「念ずれば花ひらく」を実感しようと、この記念館を訪ねて来ました。真民直筆の詩に、改めてこの詩の力強さを実感してきました。記念館の出口付近に、これも有名な「**本気**」という真民57歳の詩が掲げてありました。

「本気」

本気になると 世界が変わってくる 自分が変わってくる
変わってこなかったら まだ本気になってない証拠だ
本気な恋 本気な仕事 ああ人間 一度 こいつを つかまんことには

この詩について真民は、「本気という言葉はよく使われるが、これほど難しいものはないと思う。でも私が言いたいのは、本当にこいつをつかむかどうかで、人間が分かれてくるということである。**つかむとは、他を捨てて一つにしぼるということである。**だからこれができない限り、いくら本気だと言っても、それは口ばかりで本物にはならない。」(随筆集『念ずれば花ひらく』より)と述べています。

自分が本当に目指すものを決定したら、余計なものは犠牲にして捨て、目指すものに集中する。そういう「**本気度**」が、君たち若者、出雲高校生には必要だと思います。

本気になり、本腰を入れて取り組めば、やがて本物になる。

私たち教員はいつも、君たちが大きく花ひらいてくれることを念じています。

<参考> 坂村真民の詩

「念ずれば花ひらく」

念ずれば
花ひらく

苦しいとき
母がいつも口にしていた
このことばを
わたしもいつのころからか
となえるようになった
そうしてそのたび
わたしの花がふしぎと
ひとつひとつ
ひらいていった

「本気」

本気になると
世界が変わってくる
自分が変わってくる

変わってこなかったら
まだ本気になってない証拠だ

本気な恋
本気な仕事

ああ
人間一度
こいつを
つかまんことには

「本腰」

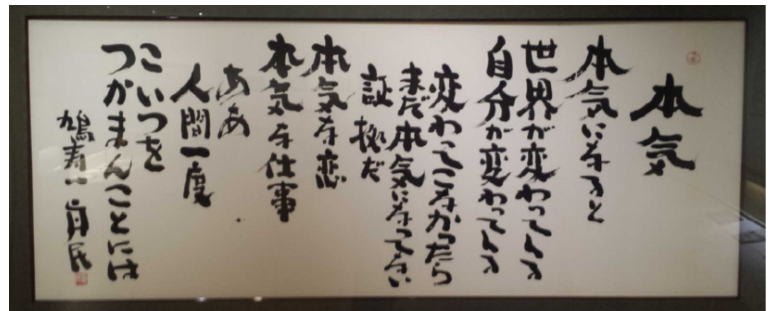
なにごとも
本腰にならねば
いい仕事はできない
新しい力も
生まれてはこない
本気
本腰
いい言葉だ

「花」

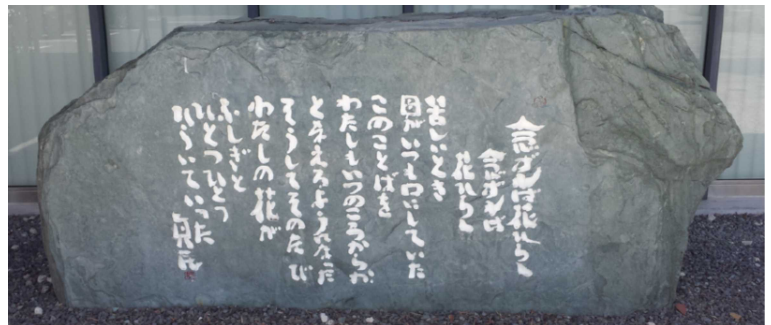
花には
散ったあとの
悲しみはない
ただ一途に咲いた
喜びだけが残るのだ



昭和 46 年 初版本 (飯塚所有)
坂村真民詩集 「朴 (ほう)」
扉にある真民直筆の書



坂村真民記念館 掲示 91 歳の書
(鳩寿 = 90 歳)



坂村真民記念館 入り口の石碑
(真民の詩碑は全国に 800 基以上ある)